最初の訪問

佐藤春夫

青空文庫

某年某月某日――この日づけは當時の彼の手紙を見ればはつきりわかる。その頃の手紙は二通か三通――全集にも未收のものが保存してある――ただ北海道にゐる弟が珍重して持つて行つてしまつて返却しない。手もとに置く必要があると幾度も言つてやるのに今だに返却しない。甚だ困る不都合千萬である。この男は何でも人のものを欲しがつて困る。本號にもこの手紙のうつしでも提供すれば有益なのに、それが出來ないので、腹が立つて來るのである。（この切り抜きを愚弟へ送りつけてやるつもりだ。）それで或る日、年ははつきり覺えぬが二月か三月春のまだ淺い日であつた。はじめて芥川を訪問した。その前に二三度手紙の往復はしてゐたし江口などを通じて間接には交友關係を生じてゐたが、面會するのはこの日がはじめてであつた。留守をおそれてゐたが幸ひ在宅のやうであつた。客があるのか門前には車が待つてゐた。取次の女中が要領を得ない様子だつた。見なれない顔だからだと思つて名刺を渡してそれをともかくも通じて貰ふことを頼んだ。すると彼はわざ〳〵玄關へ現れて、鄭重に自分で二階へ招じた。主客ともにお時宜だけは鄭寧にしたが初對面の挨拶といふやうな堅固しいものはぬきにした。しかし主は何やら浮かぬげな様子だと思つたら、彼はいふ。

「女中が留守だとでも言ひはしなかつたか」

「いいや、ただちよつとあいまいな不徹底なそぶりだつたが」

「それならいいが實は留守といふことになつてゐたものだから――原稿を書きかけて、瀧田が

下で居催促をしてゐる」

と芥川が打明けたので僕は急いで歸らうと座を立つと彼は氣の毒げに

「さうか。いや一向邪魔ではないし、君に歸つてもらつてもすら〳〵と書ける自信もなし、一そ思ひ切つて君と話してゐた方が僕としては樂しいのだが、ただ落ち着かぬ。このぎこちない氣持が君にも傳染し、我等の最初の會見の機會を圓滑なしんから樂しいものに出來ないのが殘念だからね」

と芥川の言葉の意味はざつとこんなことであつた。僕はその意を諒として再度の訪問を期し滿足して辭し去つた。

その時彼の書きかけてゐたものが何であつたかも無論題位は聞いたのだが忘れてしまつてゐる——何にしろ二十年前の話だが、多分「手巾」であつたらう。

床脇に引つこんだ一疊に置いてあつた書机（デスク）の前に主客椅子を並べて、机上にデューラーのメランコリヤをひろげて、彼がその隙間のない構圖の妙を讃へ、その金屬的に透明な線を説いて、それらが彼の藝術上の意圖といかに一致するかを説明したのは第二回の訪問の時であつたと思ふ。最初の機會にはそれほどの餘裕もなかつたわけだから。

青空文庫情報

底本：「わが龍之介像」有信堂
1959（昭和34）年9月15日発行
1960（昭和35）年6月15日第2刷発行
初出：「浪漫古典　第一巻第二号」昭和書房
1934（昭和9）年5月1日発行
入力：佐伯伊織
校正：きりんの手紙
2019年2月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

最初の訪問

佐藤春夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/